

つながりの中でくらす  
望まれた人として生きる  
自分らしく生きていく



No.

24

2010年5月発行

### 3団体合同企画

## みんなでぼっちゃっつちや~!!

自立生活センター・あるる + 大工大ボランティア教育研究会 + ほうぶ

2010年2月20日(土) 15:00~18:00

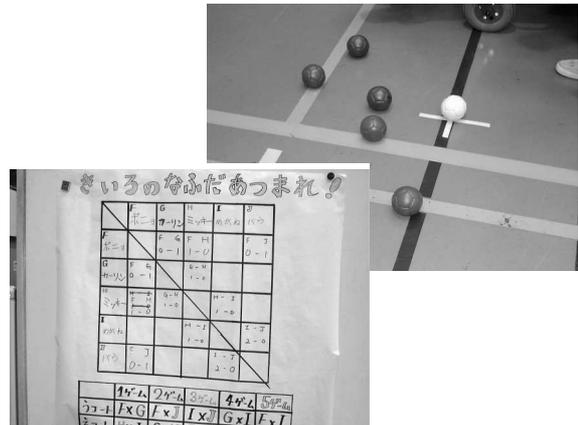
会場：大阪市立長居障害者スポーツセンター 体育館

参加者：30名

自立生活センター・あるると大阪工業大学ボランティア教育研究会との2回目の合同企画、ボッチャ大会を開催しました。今回は、体育館の全面を使用して、5チームにわかれ、チーム総当たり戦を行いました。皆さんの笑顔があふれる大会となりました。

前回は参加してくれたFちゃん、ちょっぴり成長をして、お母さんから離れてボランティアのお姉さんと一緒にゲームに参加しました。心配そうに周りをウロウロするお父さんが微笑ましかったです。今回初めて参加のKちゃん、ゲームをしながらボランティアのお姉さんとたくさんお話できたみたいで嬉しそうでした。そして、Kちゃんのお母さんは子どもから離れてゲームに熱中して「はまったわ~」と楽しそうでした。また、Nちゃんの学校の先生2名の参加もあり、大工大の学生さん達と一緒に審判をしたり得点表の記入をしたりと活躍してくださいました。

ぼっちゃは、障害のある人もない人も一緒に楽しむことができます。「楽しかった」「また参加したい」と感想をいただきました。今回参加できなかった方、次回はぜひご参加ください。



## ● 2009 年度 活動報告 ●

### 1. 障害児の余暇の充実と自立にむけた支援（大阪府地域福祉振興助成金により活動）

#### ① 音楽広場の開催

障害をもつ子どもが、保護者から離れて個別に、音楽療法士やボランティアと共にそれぞれのペースで音楽を楽しんだ。音楽療法士は専門性を用いながら子どもの暮らしを支える視点を大切に活動をし、毎回、記録を取り、それぞれの子どもに「広場通信」を送付した。

【実施日時】 音楽活動（2009年5月～2010年2月・月1回計10回）、  
交流会（2009年4月と2010年3月の2回）

【実施場所】 大阪市立両国人権文化センター 講堂（2009年4月は講習室）

【参加者】 児童：のべ96人、障害児の保護者：のべ16人、講師：のべ24人、  
ボランティア：のべ7人

#### ② レクリエーションイベントと保護者交流会の開催

障害児と兄弟姉妹が買い物に行き料理をするという体験をした。ボランティアと共に試行錯誤しながら体験の幅を広げることができた。学生中心の企画運営方式をとり、看護師等の専門職がサポートして、ボランティア養成も行った。同時に、保護者交流会を開催し、出会いの場を提供し、子どもの自立について考える機会とした。

【実施日時】 11月22日（日）11：00～15：00

【実施場所】 大阪市立旭区民センター 調理室（レクリエーション）  
集会室3（保護者交流会）

【参加者】 子ども：10人、ボランティア：15人、保護者：9人、講師：2人

#### ③ 個人将来計画の作成と実践、及び、個別活動のサポート

子どもに関わる様々な立場の人が参加し、計画の作成と実践・振り返りを行なった。障害者自立生活センターやヘルパー事業者や小児科医などとネットワークをつくり、障害児の自立に向けた「個人将来計画」作成・実践・振り返りと、課題となる教育・医療との連携などの検討を行なった。子どもの主体性を尊重しながら生活体験や社会参加を増やしていく活動に取り組むことができた。また、子どもの余暇充実のために、ボランティアをコーディネートし、制度にない社会参加のサポートをした。

【実施日時／場所】 会議はいずれも 大阪市立城北市民学習センター 会議室

・個人将来計画の作成と実践：会議5回（ワークショップ含む）、見学会1回（箕面市）

4月11日 検討会議（昨年度の振り返りと今年度計画作成）

5月2日 Aさん（モデルケース）の計画作成ワークショップ

6月30日 検討会議（計画作成）

8月26日 自立生活見学会、箕面市の自立生活を行っている方の自宅

11月28日 検討会議（実践中間報告と計画見直し）

3月6日 検討会議（今年度の振り返り）

・個別活動サポート：それぞれの子どものニーズに応じた内容で随時各所で活動。

【参加者】 個別活動サポート 子ども：のべ31人、ボランティア：のべ31人

## 2. NPO法人設立5周年記念事業（大阪ガス‘小さな灯’運動助成金により活動）

設立5周年にあたり、活動にご協力ご参加いただいた皆さんに感謝の気持ちを伝えるとともに、今後、より地域に密着した活動ができるよう、改めて、地域の皆さんの思いをお聞きすることを目的として記念行事を開催した。大人も子どもも楽しめ、様々な方が出会い語り合える雰囲気を作りグループワークを行って、参加者が主体的に参加できるプログラムとした。区内新森小路小学校区の「よさこい」踊りのチームにも参加・協力をいただき、語り合うだけではなく、身体を動かして楽しむことも盛り込んだ。今後、皆さんの声に応えられるよう、より地域に密着した地域福祉活動を行っていきたい。

当初は子ども達とボランティアによるサンドイッチづくりを企画していたが、新型インフルエンザへの対応のため、サンドイッチづくりを中止し、市販の個包装のお菓子を子ども達が盛り付け、参加者をもてなすという内容に変更した。ボランティアに、子ども達と遊んだり、行事の運営をしたり、活動を通して出会いの機会を提供するとともに、ほうぶの歩みと地域住民の方々の思いを伝える場とし、ボランティア養成につなげた。

【実施場所】 大阪市立旭区民センター 大ホール

【実施日時】 9月19日(土)13:00~16:00

【参加者】 子ども:11名(うち車椅子使用者2名)、大人:39名(うち車椅子使用者11名)、ボランティア:39名(社会人6名、大学生20名、中高校生13名)、スタッフ:8名

【後援】 旭区役所、旭区社会福祉協議会、(財)旭区コミュニティ協会

## 3. その他の事業

### ○ 子育て支援

「あさひ子育てネットワークきしゃぼっぽ」、「あさひの輪」、「あさひ不登校ねっと」など、区内の子育て支援の定例会に参加し、情報や意見の交換を行った。「きしゃぼっぽ」では、公共機関の子育て支援講座への協力や、旭区の3ヶ月検診で地域の子育て支援情報の提供を行うなど、孤立する育児の防止に努め、虐待防止につなげた。「あさひ不登校ねっと」では、定例会の運営支援、不登校児の学習支援の場作りに協力した。

### ○ まちづくりの推進

地域福祉計画(大阪市旭区アクションプラン「あさひあったかまちづくり計画」)の実践に積極的に参加し、地域住民のつながりを広げることができた。

### ○ 障害児者と家族に対する相談支援

障害児者とその家族に対する情報提供・相談支援を行った。就学・進学についての相談や、障害者自立支援法のサービス利用に関する相談などがあり、障害者自立生活支援センターやヘルパー派遣事業者と連携して対応した。

### ○ セルフヘルプグループ(当事者グループ)への運営支援

グループメンバーのエンパワメントをはかった。研修会の企画開催を支援したり、会報発行に協力したり、例会の案内はがき送付、情報提供などを行った。

### ○ 生涯学習講座や研修会など

大阪市内公共機関やNPO法人の研修会や大学の授業等に当法人社員を派遣した。

# 子どもからはじめる「個人将来計画」 ～障害をもつ子どもの自立に向けた支援～

## 計画作成ワークショップ

- 日時：2009年5月2日（土）18:00～21:00
- 場所：大阪市立城北市民学習センター 会議室1
- 参加：Aさん、保護者、Aさんにかかわる教師、友人、医師、ピアカウンセラー、自立生活センタースタッフ、ヘルパーコーディネーター、ヘルパー、ボランティア、ソーシャルワーカーなど 21名
- 内容：進学で生活の変わったAさんの個人将来計画の見直しと作成のために、参加意見を交換し合い、計画の作成を行った。



- ワークショップの開催においては、子どもに関わっている人が幅広く参加することが必要であり、特に、大人の視点や支援者よりの視点に偏らないよう、友達や兄弟姉妹、ピアカウンセラーの参加が欠かせない。また、ワークショップは、子どもも参加者も楽しい時間となるように工夫をしていくことが大切である。

## 計画作成検討会議

- 日時：2009年6月30日（火）18:00～21:00
- 場所：大阪市立城北市民学習センター 会議室3
- 参加：個人将来計画検討委員（ピアカウンセラー、医師、ヘルパーコーディネーター、ソーシャルワーカー等）、自立生活センタースタッフ、作業所スタッフ 8名
- 内容：ワークショップを振り返り、支援についての具体的な計画作りと課題の検討

- 子どもにとって学校は生活の中で大きな割合を占めるため、作成した計画は、学校で作成される「個別的教育支援計画」とも連動させたい。学校での教育支援計画作成会議は、本人と保護者に加え、「個人将来計画」作成のコーディネーターやピアカウンセラーなどが参加し連携を図る必要がある。学校の外(放課後や休暇中、家庭)での子どもの生活を伝えることで、教師が能力や学力の向上のための支援だけに目

【連携の状況】	【連携の課題】	【連携の対応】	【連携の効果】	【連携の課題】
「個人将来計画」作成会議に参加し、学校での教育支援計画作成会議にも参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。
学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。
学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。
学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。	学校での教育支援計画作成会議に参加し、連携を図る。

を奪われることなく、卒業後の生活を見据えながら支援計画作りを行うことができる。

## 医療との連携を考える 自立生活を見てみよう

- 日 時：2009年8月26日（水）16:00～19:00
- 集 合：16:00 阪急電車梅田駅3階改札
- 場 所：0さん（人工呼吸器使用者）のマンション（大阪府箕面市西小路）
- 参 加：7名（障害当事者2名、保護者1名、検討委員4名）
- 内 容：0さん宅を訪問し、お宅の見学。自立生活をしている0さん、共同生活をしているKさん（常時、医療的ケアが必要）、介助者にお話を伺った。

インタビュー（担当：当事者Nさん）

<0さん>

楽しいことは？

遅くまで起きていても家族に文句を言われないこと

困ることは？

介助者の人手不足

家賃はどうしているの？

家賃12万円＋共益費が必要。0さんとKさんで折半。3万円は自分で（障害者年金）と、残り3万円はWAM助成金（今年度）

<Kさん>

楽しいことは？

いろんなヘルパーさんと寝れること

困ることは？

とくになし

やりたいことは？

いろんな所に行って、お洒落もしたい

<インタビューメモ>

3LDKで、個室は3部屋とも同じくらいの広さで、和1洋2。風呂が少し小さい。0さんとKさんは食費が必要ない（鼻注、胃ろう）ので、家賃（共益費）と高熱費の費用で暮らすことができます。

1部屋空いている（洋室・ベッド有）ので体験宿泊可能です。

一泊3,000円です。

ぜひ、お母さん以外の人と体験宿泊に来たいと思いました。

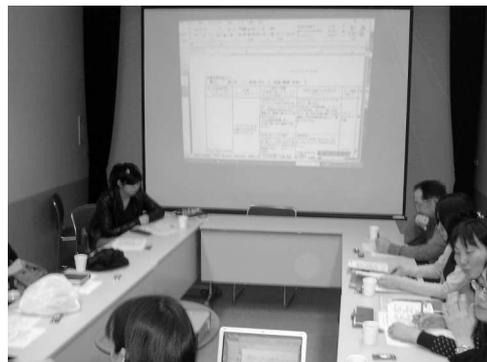




## 画実施の報告と検討

- 日 時：2009年11月28日（木）17:45～20:15
- 場 所：大阪市立城北市民学習センター 会議室3
- 参 加：自立生活センタースタッフ、ピアカウンセラー、ヘルパーコーディネーター、ボランティア、ソーシャルワーカーなど 6名
- 内 容：実施中間報告と計画の見直し

- 日 時：2010年3月6日（土）18:00～20:20
- 場 所：大阪市立城北市民学習センター 会議室3
- 参 加：Aさん、保護者、本人、自立生活センタースタッフ、ピアカウンセラー、ヘルパーコーディネーター、ボランティア、医師、教師、ソーシャルワーカーなど 13名
- 内 容：実施報告と今年度の振り返り



- 福祉サービスの利用をしていく時、作成した個人将来計画をサービス事業者の「ケア計画」と連動させる必要がある。子どもの思いが詰め込まれた個人将来計画を元にケア計画を作成することにより、個性のあるケア計画が作られる。ケア計画が作成されない場合には、ヘルパー派遣事業所や、ディサービス・ショートスティなど、子どもが過ごす場所において、ヘルパーや支援者やボランティアに対し、個人将来計画の内容を周知して、子どもの体験の機会を増やすことや子どもの思いを受けとめることを意識して活動してもらうことが大切である。
- 成長とともに、子どもと関わる人や子どもの関心事が変わっていく。生活が大きく変わる時期や一定期間ごとに、ワークショップを開催して、計画の作成、あるいは、計画の見直しを繰り返し、実践を重ねていくことが必要である。
- 個人プロフィールやライフヒストリーブックは、子どもの進学・進級、また、卒業など、子どもの生活の場が変わるのに伴い、次のサポーターへの引継ぎ資料として活用し、子どもの生活や人生の流れ(つながり)を切らないように支援していく。

桜の下、たくさんの新1年生が学校の門をくぐりました。障害をもつ子ども達や保護者にとっては、「入学」は本当に大きな「行事」なのです。この春も、あちこちで辛い涙を流す子ども達がいると思うと胸が痛みます。障害児が地域の学校で教育を受ける権利が保障されていない日本では、学校や教師の人権意識が低ければ、入学拒否や保護者の付添い・待機といった差別がまかり通るのです。すべての子ども達が、地域の学校に居ることが権利として保障される日が早く来ることを望んでいます。

